小学校第４学年　図画工作科　学習指導案

期　日　平成 23 年　９月 21 日（水）第５校時
場　所　玉名市立八嘉小学校　　４年１組教室
指導者　教諭　　新道　加代子

１　題材名

「木から生まれた世界」（A 表現（２）　絵（版）に表す活動　日本文教出版）

２　題材について

(1)　題材観

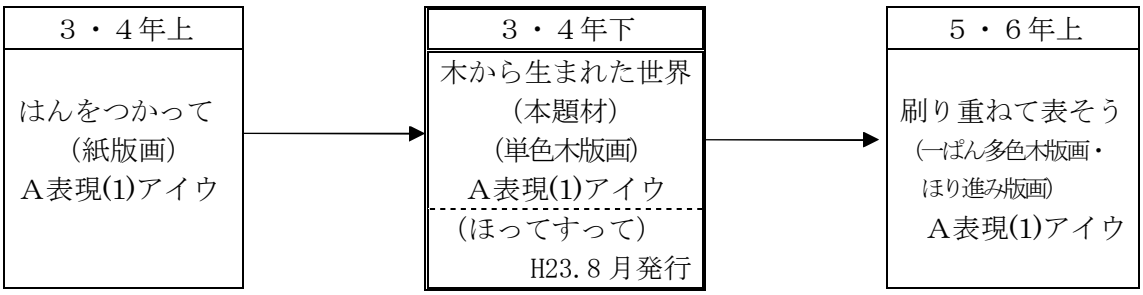
本題材は、木版で表現する学習である。木版は、木（板）を彫って版を作り、そこにインクをつけて写し取る表現方法であるが、本題材で行う単色木版の場合、紙に刷ったときに、彫ったところは白くなり、彫り残したところにはインクがついて黒くなって、形のはっきりとした力強い表現ができるのが特徴である。

本題材は、学習指導要領のＡ表現の項目（２）のア『感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付けて表すこと』に関連する題材である。また、学習指導要領の中学年の目標「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。」を受けて、子どもが感じたことや体験したことなどを基にした主題を表現するために、木版の特徴を理解し、彫りや刷りなどを工夫して表すものである。

本題材では、「下絵製作」→「転写（版への下絵）」→「彫り（版の製作）」→「刷り」→「作品の鑑賞」という流れで学習を進めていく。子どもは、自分が表したいことを基に画面構成を検討したり、彫刻刀の特徴を理解して彫り方を工夫したりするなど、それぞれの過程で課題解決に取り組むことになるが、これらの積み重ねが、最終的に刷り上がったときの喜びを一層大きなものとするだろう。

学習指導要領には〔共通事項〕として、ア「自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。」，イ「形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。」と示されている。これらの〔共通事項〕は、学習指導においては常に意識して指導を工夫していく必要がある。本題材においては、生活体験から感じたことや心に強く残っていることを基に画面構成を考える活動や、彫りや刷りの見通しを持つ活動、工夫しながら彫りや刷りなどの表現をする活動などを通して、形や動き、奥行き、白と黒の色彩などの特徴をとらえ、自分のイメージを持って表現する子どもの姿を求めていきたい。

(2)　系統観



(3)　児童観

○本学級の子どもは男子 14 人、女子 10 人の計 24 人である。図画工作の時間や造形活動を楽しみにしている子どもは 85%前後おり、作品が完成したときに達成感や充実感を感じている子どもは 95%を越えている。夏休み前までに、材料の特徴を生かして作品を作る「材料物語」や空想したり思いを広げたりして絵画の表現を工夫していく「お話の世界」等の活動を経験している。

○これまでの図画工作の学習への取組についての意識調査を６月に実施した。その結果、「自分が表したいイメージを表現するために、形や配色、表現技法等を具体的に考えて製作できた」と考えている子どもは 75%、「色をつくり出したり、表現技法を工夫したりして表現できた」と考えている子どもは約 67%、「用具を使いこなして表現することができた」と考えている子どもは 65%であった。「発

想や構想の能力」及び「創造的な技能」に関して満足感を持っている子どもは、平均すると 60～70%であったが、これは「関心・意欲・態度」に関する意識（平均 85%）に比べてやや低い結果であった。

○「鑑賞の能力」に関わる意識調査において、「友達と作品を見せ合って感想やアドバイスを述べ合うことは、とても参考になる」と感じている子どもは約 69%であったが、これまでの学習において、製作途中で互いの作品を見せ合い意見交換の場を持つことで作品に変容がみられた子どもは少なくなかった。また、「鑑賞の能力」に関して満足感を持っている子どもの平均は 69%で、これも「関心・意欲・態度」に比べて低い結果であった。

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・ 「図工の時間」が待ち遠しい。(87.5%) ・ 絵を描いたり、ものをつくったりするのは好き。(83.3%) ・ 美術作品や友達の作品を観るのは好き。(83.4%) ・ 作品が完成した時、達成感や充実感を感じる。(95.8%)	・ 「作品をこんな風に表現しよう」としっかりイメージしてとりかかることができた。(87.5%) ・ 自分が表したいイメージを表現するために、形や配色、表現技法等を具体的に考えて製作できた。(85%) ・ 製作をしていると、新しいアイデアが浮かんでくる。(91.6%)	・ 色を作り出し、表現技法を工夫したりして表現できた。(66.7%) ・ 自分が表したいイメージが表現できているか、ときどき確かめながら製作を進めることができた。(66.7%) ・ 用具を使いこなして表現することができた。(75%)	・ 友達の作品を観るのは楽しい。(79.2%) ・ 友達と作品を見せ合って感想やアドバイスを述べ合うことは、とても参考になる.(68.7%) ・ 友達の作品や美術作品を観ると、よさや美しさ等がすぐに思い浮かぶ。(79.1%)

（図画工作に関する意識調査の一部　６月実施：提示している割合は、「Ａいつもそうだと思う」「Ｂだいたいそうだと思う」を合わせた割合）

(4) 指導観

○鑑賞の能力を高めるとともに、子どもが製作に対する興味・関心を高め、自己の作品や各過程の活動に対するイメージを明確に持ちながら取り組むことができるように、「鑑賞活動」を各学習過程に設定する。対象として取り上げる作品は、参考となるような優れた作品だけでなく子どもの作品を積極的に取り上げる。この「鑑賞活動」を通して、学級全体で活動のポイントとなる視点を共有化したり、グループで製作途中の課題やその解決策を確認したりしながら、鑑賞の能力をはじめとする造形の諸能力や感性を高め合っていくことを目指す。

○各学習過程に「話し合う活動」を中心とした言語活動の場を設定する。表したいイメージや工夫などを伝え合ったり、学んだことや感じたことを共有したり、アドバイスをし合ったりする活動を行うことにより、発想や構想の能力の育成を図るとともに、このような活動自体のよさを実感させたい。また、ワークシート（ことばのスケッチ）を活用した「書く活動」も適切に行い、表したいことや表現の構想を具体化するなどの、発想や構想の能力の育成を図るとともに、学習の記録や振り返りを行わせて、自己の学びを自覚させるようにしたい。これらの記録は、子どもの学習状況の把握や以後の指導の改善にも活用するものとする。

○子どもの発想や構想を具体化するための支援の方策として、ワークシートやラフスケッチや下絵に言葉を書き加える「ことばのスケッチ」を行わせる。話し合う活動においても、この「ことばのスケッチ」を基に意見を交換させ、表したいイメージを確認したり見直したりしながら取り組んでいくことができるようにする。

○人物の動きなどがイメージ通りに表現できない子どものために、人の体を関節ごとに区切った「おたすけグッズ」（人物の体をパーツごとにつなぎ動きが操作できる教具）を準備し、その操作を通して表したいイメージを明確にできるようにする。

○子どもへの安全指導をより確かなものにするために、彫刻刀をはじめとする正しい用具の使い方については、事前に ICT 機器等を利用して確実な定着を図るようにする。

Bプロジェクト「学習評価と指導の改善」の視点から
図画工作科において、思考力、判断力、表現力等に深くかかわるものは「A表現」領域での「発想や構想の能力」と「B鑑賞」領域での「鑑賞の能力」である。「発想や構想の能力」とは、小学校学習指導要領解説図画工作編によれば、「形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりするなどの能力」であり、「鑑賞の能力」は「作品をつくったり見たりするときに働いているよさや美しさなどを感じ取る能力」である。 本題材における「発想や構想の能力」は、「自分の描きたいイメージをはっきり持ち、それを表すために画面構成や彫り方、刷り方等を考えていく能力」である。このような力を発揮している子どもの姿を「おおむね満足できる」状況として、主に観察や「ことばのスケッチ」、対話、作品の分析などからとらえることとする。 図画工作科では、観察は重要な評価方法である。子どもがどのような発想や構想をしているのか、子どもの動きや視線、会話などからとらえるようにする。また、観察に加えて、ラフスケッチや下絵に言葉を書き加えたりワークシートに記入したりする「ことばのスケッチ」を各過程で適切に行い、その内容を把握することで、より確かに学習の状況をとらえることを目指す。このことによって、気付いたことを基にその場で支援したり、称賛や励ましを行ったりするなど適切な指導を行う。以上の方法を組み合わせて、すべての子どもの状況を把握することを目指す。 なお、題材の後半の段階では、「よりよい表現となるように、白黒のバランスなど、初めに思い付いた形から、さらに発展させて新しい形を思い付いている」「自分のイメージに沿って彫り方や刷り方を考え、形や色を工夫している」など、発想や構想が発展している状況をとらえることにする。その際、初めの段階での下絵と、後半の刷り上がった作品とを比べることで、一人一人の「発想や構想の能力」の変容をとらえるようにする。 本題材における「鑑賞の能力」は、「自分が感じたことを話したり友達の考えを聞いたりしながら、作品のよさや面白さ、表現の工夫等をとらえる力」である。このような力を発揮している子どもの姿を「おおむね満足できる」状況として、観察や「ことばのスケッチ」、感想文などからとらえることとする。ただし、本題材では各過程で鑑賞活動を行うが、終末段階での「完成した作品を友達と見せ合い、工夫した点等を知らせ合う」活動で重点的に評価し、本題材の学習活動全体を通しては、「作品のよさや面白さ、表現の工夫等をとらえる」姿が見られることに留意しながら指導するにとどめる。

3　題材の目標と評価規準

題材の目標	感じたことや想像したことなどから表したいイメージを具体化し、彫刻刀の扱いに慣れ、木版の特徴を理解し，工夫しながら表す。
関心・意欲・態度	①彫刻刀を使う活動を楽しみながら、木版で表すことに取り組もうとしている。
発想・構想の能力	①日頃の生活で印象に残ったことを思い出し、表したい場面の構成を考えている。 ②よりよい表現となるように、白黒のバランスや彫り方、刷り方を考えている。
創造的な技能	①彫る部分を考え彫刻刀の特徴を生かして版をつくったり、インクの量やローラーの使い方を考えて刷るなど、工夫して表している。
鑑賞の能力	①自分が感じたことを話したり、友達の考えを聞いたりしながら、作品のよさや面白さ、表現の工夫などをとらえている。

4　指導・評価の計画（８時間取扱い　本時1/8）

次	時	学習活動	指導上の留意点 **※プロジェクトの視点から**	評価基準(基準Ｂ)(評価方法)
事前学習	0	○楽しかったこと、印象に残ったことなどをスケッチし、表したいイメージを整理しておく。	日頃の生活で印象に残ったことなどを木版画に表すことを伝え、表したいことをスケッチしておくように伝える。	
1	1（本時）	○スケッチを基に、「大きさ」や「動き」などの視点を考慮し、友達と話し合って、より自分のイメージに合った下絵の構成を考える。	**※下絵をより自分のイメージに合ったものにするために** **①参考作品を鑑賞させ、「検討する視点」を提示する。** **②グループで鑑賞させ、イメージの明確化・意見の交流を行わせる。** **※人物の動きや大きさをよりイメージ化できるように「おたすけグッズ」を利用させる。**	**発想･構想の能力①** （ワークシート・下絵用紙・観察） 自分のイメージに合わせて形や動き、大きさなどの視点から下絵の構想を考えている。
2	1	○板と同じ大きさの画用紙に「下絵」を仕上げる。	・自分のイメージにあった下絵となるように、前時の学習を想起させ、「おたすけグッズ」等を引き続き利用させる。	**発想･構想の能力①** （下絵・観察） 自分のイメージに合わせて，形や大きさ,動き等の視点から下絵の構成を考えている。
3	1	○できあがった「下絵」を版木に転写し、彫りの計画を立てる。	・転写した版木を基に、よりよい表現となるように、白黒のバランスや彫り方を考えさせる。	**発想･構想の能力②** （版木・ワークシート・観察） 転写した版木を基に、白黒のバランスや彫り方の計画を考えている。
4〜6	3	○彫り方を工夫して彫る。 ・試し刷りを行う。 ・版の修正（彫り足し）を行う。	・安全に留意して活動できるように、ICT 機器を利用して彫刻刀の安全な使い方の指導を徹底する。 ・彫刻刀の特徴を生かして活動に臨めるように、版木の裏にそれぞれの彫刻刀の使い方を練習させる。 **※よりよい表現とするために、グループで試し刷りの鑑賞を行い、表現の工夫の共有や意見の交流を行う。**	**関心･意欲･態度①** （観察） 彫刻刀を使う活動を楽しみながら、簡単な木版で表すことに取り組もうとしている。 **発想･構想の能力②** （版木・観察） 彫刻刀の特徴を考えて、効果的な彫り方を考えている。 **創造的な技能①** （版木・観察） 黒と白のバランスや彫りの効果を考え、工夫して彫っている。
7	1	○インクの量やローラーの使い方等を考えて刷る。	・子どもが彫ってきた板木から、子どものイメージ通りの刷りが仕上がるように、効果的な場の設定やインクの量を指導していく。	**創造的な技能①** (作品・版木・観察) インクの量やローラーの使い方を考え、工夫して刷っている。
8	1	○仕上がった作品を友達と見せ合い、工夫した点等を知らせ合う。	**※子どもが作品を観て感想を交換しやすくするために、ワークシート等を利用させる。**	**鑑賞の能力①** （ワークシート・発言） 自分が感じたことを話したり、友達の考えを聞いたりしながら、作品のよさやおもしろさ、表現の工夫などをとらえている。

5　本時の学習

（1）　目標

自分が表現したいイメージに合わせて、下絵の構想を具体化する。

（2）　評価基準　発想や構想の能力（観察，作品～下絵～）

（基準Ｂ）自分のイメージに合わせて、形や動き、大きさなどの視点を考慮し下絵の構想を考えている。

（基準Ａ）自分のイメージに合わせて、形や動き、大きさなどを考えるとともに、背景や周囲との組み合わせも配慮して下絵の構想を考えている。

（3）展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 **※Ｂプロジェクトの視点**	備考
導入 10分	1　自分のラフスケッチを見て､表したいイメージを確認する。	○ラフスケッチを見て、表したいイメージを確認しましょう。	**※例示をしながら、表したいイメージを簡単な言葉で表現させる。**	ラフスケッチ（言葉のスケッチ）
	2　２枚の絵を鑑賞する。 (1) ２枚の絵の違いや気付きを話し合う。 【一斉】	○これらはどちらも・・している絵です。２枚の絵を見て、気付いたことを出し合いましょう。	○人物の大きさの異なる２枚の絵、動きのあるものとないものの２枚の絵等を取り上げ、気付きを発言させる中で、人物の大きさ・動きに目を向けさせる。	参考作品 実物投影機
	(2) 動きや大きさをイメージ合わせていくための方法を考える。 【一斉】	○どうすると動きのある絵になるでしょう。 ○どのくらい大きくするといいでしょう。	○動きや大きさに関しては、大きさの違う体の各部分をばらばらにした紙片を用意し、具体的に操作させイメージを具体化していく。 **※取り組みの視点を明確にするために「ことばのポケット」からキーワードを提示する。（「大きさ」「動き」「重なり」「ポーズ」など）**	おたすけグッズ ことばのポケット
	3　学習課題を確認する。 【一斉】	自分が表したいイメージにあった下絵を工夫して描こう		
		○表したいイメージを表現するためには、どんなことに気を付けて描けばいいですか。	**※人物の動きや大きさなどの工夫する視点を明確にするために、ラフスケッチには「～したい」、「～する」などの言葉を書きこませる。**	
展開 20分	4　ラフスケッチをもとに、自分の作品の下絵を描いていく。【個人】	○ラフスケッチをもとに､大きさや動きを工夫して下絵を作りましょう。 ○困ったらおたすけコーナーから考えやすいタイプの「おたすけグッズ」をとって参考にしましょう。 ○どうしても自分のイメージどおり表現できないところは､後で友達にアドバイスをもらえるように付箋紙にメモをしてその箇所にはっ	○人物の動きをより描きやすくするため､「おたすけグッズ」を活用させる。 ○どうしても自分のイメージ通り表現できないところは付箋紙などを利用して、後の話し合い活動で活かせるようにメモさせておく。 **【評価：発想や構想の能力（観察・作品）】** **〈B基準に達しない子どもへの手だて〉** ・対話を通して表したいイメージを確認し、「おたすけグッズ」を活用しながらイメージを具現化していく支援を行う。	おたすけグッズ 付箋紙

		ておきましょう。		
10分	5　途中作品をグループで見せ合い、説明や気付き、アドバイスを伝え合う。 【グループ】→【一斉】	○自分の途中作品について､表したいイメージやそれを表現するための工夫を説明し､友達の作品に対するアドバイスを出し合いましょう。	○全員が自分の絵を見せ、また意見を出しやすくするため、グループは３～４名の構成とする。 ○「ことばのスケッチ」を基に、「大きさ」や「動き」などの視点から説明させる。 **※グループでの鑑賞により、表したいイメージを一層明確にしたり広げたりすることを図る。** ○一斉での話し合いはグループの話し合いの状況をみて指導者が仕組んでいく。	
整理 5分	6　本時の学習を振り返り、自分の作品に友達のアドバイスや今後の見通し、今日の感想等を記録する。【個人】	○今日の学習を通して気付いたことや感想､友達のアドバイスを聞いて今後こうしようと思っていること等を記録しましょう。	○スムーズに次時につないでいくことができるように、ワークシートと絵はセットで保管させる。	ワークシート